

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

第8回理事会 開催日：11月18日。出席者：藤本会長
他 24 名。

1. 委員委嘱、解嘱の件
 - (1) 原子力部会長解嘱、委嘱の件
解嘱 湯川正夫君 (10月逝去)
委嘱 藤木俊三君 (八幡製鉄、副社長)

以上決定

- (2) 編集委員委嘱の件

[講演大会分科会担当]

- 西田信直君 (富士本社)
- 近藤真一君 (八幡東研)
- 佐藤利雄君 (住金東京)
- 郡司好喜君 (金材技研)
- 大井 浩君 (川鉄技研)
- 中村 泰君 (八幡東研)
- 赤松泰輔君 (富士中研)
- 渡辺 敏君 (金材技研)
- 深瀬幸重君 (日本冶金川崎)

以上決定

2. 製鉄部会コークス分科会の設立について
分科会を設立することを決定。
3. 45年度理事会開催回数
の件
従来毎月開催してきたが、2月、4月、6月、7月、
9月、12月に開催することを決定した。
4. たたら操業報告
松下幸雄委員長よりたたら製鉄法の複元が成功裡に完
了した旨の報告がなされた。

企 画 委 員 会

第7回委員会 開催日：11月13日。出席者：俵委員長
他 11 名。

1. 会計分科会報告
9月期の収支は問題なかった。
昭和45年度予算について第1次要求案にもとづき検
討した。昭和44年度に比べ2700万円増(基礎研費
1500万円を含む)となっている。物価などの値上げも
考え、全体で2500万円増程度におさえたいとの中間報
告がなされた。
2. 真空冶金国際会議準備委員会設立について
準備委員会メンバーが承認された。なおメンバー中
に非鉄関係から追加することになった。
3. 溶鋼溶滓部会44年度研究費の負担依頼について
15106950円の委託研究費の要求をしていたが、11
179000円に決定した。差額については、分科会で具
体的に検討し、1部消耗品など削除して、3,148,550円
の不足となるが、本会予算内から出すことを企画委員
会として決定した。
4. 理事会開催回数について
事務局案について検討、企画委員会として承認された。

ただし、単に回数を減らすということではなく、運用の仕
方と考えるべく理事会にすべきであるとの意見があつ
た。

5. 厚生資金貸付制度について

事務局案により検討、主旨については承認された。た
だし借入金申込の項に貸付後問題が生じないように細則
について再度検討することになった。

6. 日本ねじ研究協会賛助会員加入の件

賛助会として加入することならびに加入金5000円が
承認された。

研 究 委 員 会

第5回委員会 開催日：11月18日。出席者：今井委員
長、他 23 名。

報告事項として「たたら操業報告」と題し10月25日か
ら11月8日まで3回行なつた実操業状況報告がなされ
た。その他5件の報告事項の説明の後、鉄鋼協会、金属学
会、学振の共同で行なつている鉄鋼基礎共同研究会に提
案すべき来年度からの新設部会、その他を審議した結果
新部会として「再結晶集合組織」「遅れ破壊」などのテ
ーマをとりあげる方針で更に詳細を検討し具体的内容を
明確にすることになった。

第6回教育問題小委員会 開催日：11月15日。出席
者：佐野小委員長、他 7 名。

1970年9月鉄鋼科学技術国際会議の教育部門(第7セ
クション)について

1. 外国招待講演者の確認
米、英、独、仏、伊、アルゼンチンより招待予定。

2. 日本からの講演者推薦

佐野先生(名大工)を推薦し、広く見解を求めめるため
春講演大会時、教育問題の討論会を行なうようにする。

3. その他

秋季の冶金教育シンポジウムの反省とともに現状と問
題点に関し意見交換を行なつた。

編 集 委 員 会

第5回運営委員会

開催日：11月18日。出席者：荒木委員長、他 17 名。

1. 会誌ならびに講演大会の今後のあり方について検
討した。

2. 講演大会に関する組織について、事務局の案が
提出され、講演大会分科会でさらに検討することになつ
た。

3. 委員委嘱、変更の件

和文会誌ならびに講演大会分科会の委員を補強するこ
とと決定した。

第9回欧文会誌分科会

開催日：11月19日。出席者：橋口主査、他 15 名。

1. 10件の論文について査読報告がなされた。
2. 鉄と鋼掲載論文、第78回講演大会発表論文などの

うちから11件のものにつき投稿を勧誘することが決められた。

第6回出版分科会 開催日：11月12日。出席者：佐藤主査，他8名。

1. 「鉄鋼製造法」委員依頼状況などについて報告があつた。
2. 今後の出版計画について検討した。

共同研究会 製鋼部会

第44回部会 開催日：10月30，31日。出席者：石原部会長，他117名。

1. 研究発表
 - (1) 製鋼設備に関する研究……………1件
 - (2) 製鋼に関する計測技術の研究……………15件
 - (3) 鋼塊の欠陥防止に関する研究……………7件
 - (4) 脱ガスおよび連続鍛造などの新技術に関する研究……………11件
2. 工場見学
 - (1) 富士製鉄(株)室蘭製鉄所
 - (2) (株)日本製鋼所室蘭製作所

第7回電気炉分科会 開催日：11月19～20日。出席者：松本主査，他55名。

第7回電気炉分科会は大谷重工業，国光製鋼の世話で大阪地区にて第6回に引き続き「高電力操業」「集塵装置」「製鋼用耐火物」を主テーマとして各委員より成果発表と熱心な検討が第1日目に行なわれ，開催回数を経るに従つて分科会の内容も充実され非常にopenな状態で発表を終わった。

第2日目は大谷重工業，国光製鋼の見学をし大いに有益であつた。

第21回鑄型分科会 開催日：11月11，12日。出席者：岡部主査，他74名。

- 2年ぶりに再開されたが，
- (1) 直注鑄型に関する研究
 - (2) 大型鑄型に関する研究
 - (3) D.C.I.と鑄型の改善について
 - (4) 鑄型の修理，強制冷却，使用管理について
 - (5) 鑄型定盤の改善

などに関して，合計18件の発表がなされ，活発な質疑応答が行なわれた。

鋼板部会

第28回厚板分科会 開催日：11月20，21日。出席者：有村主査，他86名。

1. 共同研究
 - (1) 操業状況報告
 - (2) 特別テーマ(新技術)
 - (3) 共通議題(厚み精度)

新技術開発に関して各社より，連鑄材の品質，連続超音波探傷，シアの自動化，マーキングなど発表し，討論が行なわれる。

厚み精度については会場を2つに分け，小グループに

よる活発な意見交換が行なわれた。

2. その他

(1) 次回予定 八幡・君津

議題などの詳細は12日小委員会にて決める予定である。

条鋼部会

第11回大形分科会 開催日：10月21，22日。出席者：中島主査，他86名。

1. 共通議題
 - (1) 精整作業の現状と問題点
 - (2) 圧延機およびロール組替装置についての2つについて，各事業所より詳細な報告が行なわれた。
2. 自由議題

各事業所1件ずつ報告された。
3. 工場見学

富士製鉄室蘭製鉄所構内および条鋼工場を見学した。
4. 今後の予定

次回は45年春，日本鋼管福山にて，要員配置，成品表示法などのテーマで開催の予定。

鋼管部会

第13回部会 開催日：11月21，22日。出席者：三瀬部会長，他119名。

下記の議題について報告があつた。

1. 共通議題
 - (1) 自主検査体制について
 - (2) 矯正切断について
2. 継目無分科会報告
 - (1) 加熱炉の操業
 - (2) 押出における偏肉試験結果
3. 溶接管分科会報告
 - (1) 溶接鋼管溶接部の検査および補修
 - (2) 高周波抵抗溶接管の硬度
4. 自由議題

連続鑄造材による熱間押出鋼管の製造について
5. 工場見学

八幡製鉄光製鉄所の工場見学が行なわれた。

鉄鋼分析部会

第7回化学分析分科会 開催日：11月24日。出席者：新見主査，他49名。

鉄鉱石の分析JIS見直しのための検討を中心に審議した。

1. 分析のJIS書式統一について工技院より説明を受けた。原案作成に当たってはこの様式に従う。
2. 鉄鉱石の分析
 - (1) 次の元素について共同実験を行なうことにした。—Cu, Al, Ni, CaO, MgO, Sn, V, Co, Na₂O, K₂O—
 - (2) 次の元素分析に関する共同実験のまとめの報告があつた。—化合物水，全鉄，SiO₂—
 - (3) 原案提出は来年7月末日なので来年3月頃まで

には技術的検討を終了するようにする。

3. 鉄および鋼の分析

Ni, Cu, Sn 分析法の検討発表が行なわれた。S の分析共同実験については更に詳しい実験要領を作成することにした。

なお次回は来年 7 月 26, 27 の両日開催の予定である。

熱経済技術部会

第 7 回耐火物分科会 開催日: 11 月 13, 14 日。出席者: 吉田主査, 他 38 名。

今回は会場を九州に移し八幡製鉄技術研究所にて第 1 日目に各委員から均熱炉レキュペレーター(アームコ式)スキッドパイプの保温法, 不定形耐火物による施工法とその結果などについて発表があり討議がなされた。

特別講演は大光炉材より不定形耐火物について行なわれた。

工場見学は黒崎窯業を見学し, 耐火物に対して更に関心を深めた。

計 測 部 会

第 44 回部会 開催日: 10 月 31 日 ~ 11 月 1 日。出席者: 久田部会長, 他 94 名。

- 報告 (1) 工業計器小委報告 (最終)
(2) 保守効果測定小委中間報告
(3) I F A C 出張報告

- (1) 共同研究
(1) 自由議題
(2) 共通議題

「コンピューターの検出端の問題点について」

に関し, 活発な意見交換が行なわれた。

第 28 回秤量分科会 開催日: 11 月 6, 7 日。出席者: 中沢主査, 他 60 名。

1. コンベアスケールとりまとめ資料

3 年にわたるコンベアスケールの検討結果をとりまとめた資料について発表され残部資料を有償頒布することになった。

2. 共通議題「秤量値の記録および伝送」

各社より延 18 部の報告があった。

3. 特別議題発表

各社より延べ 7 件の報告があった。

4. 東京ガス豊州工場見学

第 2 日目午後東京ガス豊州工場の秤量設備について見学を行なった。

原子力部会

第 5 回部会 開催日: 10 月 2 日。出席者: 向坊部会長代理, 他 80 名。

1. 高温原子炉開発に関する要望書について

44 年 6 月政府に対し, 掲題の要望書を提出した旨の報告が行なわれた。

2. 各小委員会の検討状況報告

次の各小委員会より報告が行なわれた。

- (1) 第 1 小委員会 (原子力発電による電力の利用)

- (2) 第 2 小委員会 (原子力熱エネルギーの製鉄プロセスへの利用)

- (3) 第 3 小委員会 (原子炉の検討)

- (4) 第 4 小委員会 (熱交換器の検討)

- (5) 第 5 小委員会 (還元ガスの製造)

- (6) 特許グループ (原子力製鉄外国特許上陸の対応策検討と研究開発に於ける部会契約規定の作成)

3. 新設委員会について

第 4, 第 5 小委員会の新設を承認した。

第 5 回第 1 小委員会 開催日 10 月 2 日。出席者: 松本小委員長, 他 15 名。

1. 第 3 次 ワーキンググループ 検討方針

プロセス変換一製鋼部門の検討の対象として現行大型高炉 + L D 転炉法に対して原子発電による安価な電力を利用した超高電力電炉製鋼法が経済性を有するか否かについて検討することになった。ただし原料は還元鉄を装入するものとした。

2. 原子力部会合同会議への報告

当日の合同会議へは「原子力発電による電力を利用したプロセス変換の検討一製鉄」について報告することとなった。

第 4 回第 2 小委員会 開催日: 9 月 24 日。出席者: 松下小委員長, 他 20 名。

1. 原子力熱エネルギーの直接製鉄法に対する適用の検討

ワーキンググループで検討が行なわれていたこの問題について多数の既存のプロセスを評価して 3 つのプロセスに絞り今後の研究の方針案を提出した。そして熱出力 5 万 kW の高温実験原子炉を対象としたプロセスの経済性について data をまとめた。

2. 原子力熱エネルギーの現行高炉法に対する利用の検討

高炉シャフト部へ還元ガスを吹込む技術について理論的検討を行ない, ガス吹込みの merit について評価した。

3. 第 5 小委員会への委員派遣

第 5 小委員会 (還元ガスの製造) への第 2 小委員会より委員を派遣することとなった。

第 6 回第 3 小委員会 開催日: 9 月 22 日。出席者: 杉本小委員長, 他 25 名。

1. 製鉄用高温ガス冷却実験炉に関する検討中間報告
ワーキンググループで検討を行なっていた高温実験炉の基本構想について検討結果が報告された。

2. 今後の進め方

高温実験炉の概念設計についての検討の進め方につき部会に方針の指示を求めることとなった。

第 1 回第 4 小委員会 開催日: 10 月 30 日。出席者: 森小委員長, 他 18 名。

1. 小委員会発足経過報告

2. 第 3 小委員会中間報告に関する解説

3. 第 2 小委員会中間報告に関する解説

4. 第 4 小委員会の今後の進め方

小委員長より, 本小委員会の活動内容として, (1) 第 3 小委員会案実験炉の高温熱交換器の検討, 計画, (2)

ガス変成炉を兼ねた将来の熱交換器の問題点の調査研究の2点がある旨説明され、次回小委員会から、先ず各分野でのガス-ガス熱交換器の現情調査から始めることとなり、次のように分担をきめた。

ガスタービン関係	富士電機
原子炉関係	原 研
MHD発電関係	東 芝
CO ₂ , CO, H ₂ と金属材料の腐食	金 材 研
高温金属材料	日 特

第2回特許グループ 開催日：10月21日。出席者：葛本主査，他 12名。

1. 西独の原子力製鉄特許申請に関する対応策検討
発電以外に製鉄目的のために原子力エネルギーを適用する内容の文献を収集，検討し，特許庁審査部に説明することとなった。

2. 原子力製鉄特許リストの作成

原子力部会で検討中の諸問題につき必要な特許の収集を行ない，分類リストを作成することとなった。

第3回特許グループ 開催日：11月25日。出席者：葛本主査，他 11名。

1. 直接製鉄法の特許の調査

1950年以降の直接製鉄法の内外の特許の調査を行ないリストを作成し，第2小委員会に供与することとなった。

2. 原子力部会における契約規定の検討

部会幹事会の指示により次回より原子力製鉄研究開発における契約規定の検討を進めることになり参考資料を収集することになった。

標準化委員会

第45回幹事会 開催日：11月5日。出席者：木下幹事長，他 22名。

1. 委員交替紹介

2. 次回標準化委員会およびISO鉄鋼部会について
12月5日に合同会議を開催することとなり，議題を検討した。

3. 外部団体の規格検討における委員派遣に関する内規について

掲題に関して基本的には標準化委員会常置分科会主査の判断にて処理することとなった。

4. 自動車技術会規格

自動車技術会規格の検討状況が紹介された。

5. 条鋼マニュアルの編集について

条鋼部会で進めている編集委員会に標準化委員会から委員を2名派遣することとなった。

6. 45年度JIS作成計画

工技院より45年度JIS作成計画案につき説明された。

データシート部会

第5回伸び値と試験片寸法効果分科会

開催日：8月29日。出席者：山岡主査，他 5名。

今回を含めて5回の委員会を行なってきたが一応今回でもつて大要がまとまり，後は一部字句の訂正と，各強度別，鋼種別の実験データについて有意差があるかないかを各担当のもとで検討し，結果を幹事のもとでまとめ

て書面審議を行なうこととなった。

そこで何か問題が生じた場合には分科会委員を招集するが特になければ以後の処理は幹事に一任することとし分科会は今回で終了する。最終的にはデータシート部会で承認を受け，適正な方法で公表する予定である。

なお分科会でとりまとめた対象材は 40, 50, 60 kg/mm² である。

第33回普通鋼分科会 開催日：9月1日。出席者：山岡主査，他 14名。

報告事項

(1) 山本新幹事の紹介

審議事項

(1) SVの見直し

(2) 造船用規格鋼材の統一記号について

第34回普通鋼分科会 開催日：10月14日。出席者：山岡主査，他 17名。

報告事項

JIS G3101, 3106の検討結果について

審議事項

(1) 昭和45年度鋼船規則の改正について

(2) 船体用高張力鋼材の国際規格案に対する日本鉄鋼メーカーコメントの作成

第35回普通鋼分科会 開催日：11月18日。出席者：山岡主査，他 16名。

標準成分による炭素鋼鋼材のJIS化は必要ないと結論された。工業標準原案見直しによる規格改正の可否審議(JIS G3192-1966, G3101-1966, G3106-1966)を行なった。さらに45年度JISの新規制定と改定計画を検討した。

第18回鋼管分科会 開催日：9月30日。出席者：桑原主査，他 16名。

1. 熱伝達用鋼管の引張強さの制限

硬さの上限規定案と引張強さ上限規定案を比較検討しISOにならない後者の規定案を将来JIS化してゆくこととなった。

2. 低塩用鋼管の衝撃試験

現行試験片 5mm U から 2mm V の方向に転換してゆく方針を固め検討を推進することとなった。

3. サブマージドアーク溶接鋼管の規格

現行 41 キロ級グレードより更に高強度のもの JIS 化につき検討したが時期尚早との結論に達した。

4. ISO TC67, TC5 について

TC67 について日本として P メンバーになるべきであるとの意見を標準化委員会に提出することとなった。

第19回鋼管分科会 開催日：11月28日。出席者：桑原主査，他 16名。

1. 45年JIS原案作成および改正に関する意見提出について

掲題に関し45年度JIS見直し検討に関する鋼管分科会の意見をとりまとめ提出することとなった。

2. 低温用鋼管の衝撃試験

現行試験片を 5mm U より 2mm V に変更する方針

を固め更に data の積み上げを行なうこととなつた。

3. 引張試験における伸び

ISO Recommendation ならびに海事協会規格の実施に鑑み鋼管分科会として伸び決定方法に関する試験を実施し、将来の JIS 改正の可否を検討することとなつた。

.....

第 8 回原子力用鋼材分科会 開催日: 10月7日. 出席者: 長谷川主査, 他 10 名.

1. 熱交換器用, 配管用 Ni-Cr-Fe 合金管原案の審議幹事より前回審議による整理案を提出し, 討議が行なわれた。

2. 原子力機器用鋼材体系調査ワーキンググループについて

44年度工技院委託による原子力機器用鋼材の体系など諸問題の調査を本分科会が行なうことになり, 数名のワーキンググループを発足させることとなつた。

.....

第 1 回 JIS 炭素工具鋼, 合金工具鋼原案分科会

開催日: 11月4日. 出席者: 石原主査, 他 25 名.

今回は第 1 回目の会合であり, 主査, 鉄鋼協会技術部長, 工技院からそれぞれ挨拶および分科会設立趣旨説明がなされ, 続いてこれからの審議方針, 改正項目の抽出に絞り検討を行なつた. その結果の概略は下記のとおりですが合金工具鋼の大部分は次回検討することになつた。

検討結果 (改正を考えられる事項)

炭素工具鋼 (1) 油焼入鋼のとり扱い
(2) 焼なまし方法について
(3) 製造法
(4) 標準寸法, その他

合金工具鋼 (1) 鋼種種類の改廃
(2) 焼なまし, 硬度について
(3) 標準寸法, その他

なお今回で十分な検討まで行なえなかつたので関係先へアンケートを行ない次回更に検討していくことになつた。

第10回鋼管クイH型鋼クイ JIS 原案分科会

開催日: 11月10日. 出席者: 大崎主査, 他 25 名.

1. 鋼管クイの標準寸法

インチ寸法にミリラウンド寸法 3 サイズすなわち 500, 600, 700 を追加することで妥結した. なおインチ寸法は多少減らすこととなつた。

2. 今後の予定

以上で原案の審議を終了し, 審議経過報告書は幹事会社で作成し, 書面審議とすることとなつた。

第 9 回原子力用鋼材原案分科会 開催日: 11月12日. 出席者: 長谷川主査, 他 19 名.

1. 配管用ならびに熱交換器用 Ni-Cr-Fe 合金管原案について

最終案について検討し, 近日答申する段階となつた。

2. 原子力機器用鋼材体系調査について

ワーキンググループで検討した. 第 2 次案につき, 提出され, 幹事より説明があつた. 各委員より活発な討論があり, 第 3 次案に反映せしめることとなつた。

ク リ ー プ 委 員 会

第 2 回クリープ試験分科会 開催日: 9月30日. 出席者: 平主査, 他 28 名.

1. 国際共通試験について

進捗状況の説明があつたのち, データの記入方法について検討した。

2. 第 3 回共通高温引張強試験について

試験の中間報告があつたのち, 今後の取り扱い方について検討した。

3. クリープおよび高温引張データシート作成について

収集したデータの整理方法について小委員会で検討し実施中であるがその報告がなされた。

4. データシート部会よりの依頼事項について

データシート部会より高温引張に関するデータの作成の依頼があり, それに対する態度および試験の進め方について検討した。

国際鉄鋼技術委員会

第 6 回委員会 開催日: 10月7日. 出席者: 豊田委員長他 13 名.

1. IISI の中に原子力に関する小委員会を設立することについて

標記の小委員会を設立する動きがあり, 設立されるようであれば日本も参加することになつた. ただし勉強会とし鉄鋼メーカー側よりみだり原子力の利用に限るという意見をつけることとした。

2. 高炉・焼結および転炉に関する能力調査について

標記の調査を IISI のメンバー国についておこなつたが, その今後について日本の態度を議論した. 有益であるので今後も定期的に続けていくことを提案することとした。

第 7 回委員会 開催日: 11月4日. 出席者: 豊田委員長, 他 13 名.

10月に東京で開催された IISI 総会時に行なわれた IISI 技術委員会の模様を梅根代表が説明した. 概要は次のとおりである。

1. 高炉, 焼結, 転炉の作業調査は今後も続けるが, 内容については更に補足する。

2. 今後の調査対象期間は 1 年のうち連続 3 カ月とする。

3. 原子力利用に関して国際協力を行なう件については米, 英国などの反対が強く, 技術委員会では一切扱わないことにする。

4. 来年からは直接還元を取りあげる。

このほかソ連, スウェーデンからの使節団来日について鉄連の担当者から説明があり, 必要に応じて協力することになつた。

材料試験原子炉利用委員会

第13回委員会 開催日: 11月10日. 出席者: 長谷川委員長, 他 26 名.

原研大洗の JMTR は一部水洩れなどのため始動が遅

れていたが一応修理も終了し近く始動に入ることになっており明年2月中旬から0-0サイクルに入り約1年間試用期間を置き46年2月頃から有料照射に入る予定との原研からの説明があつた。

そこで当委員会から提出している試料は順次明年2月からの試用期間内に照射されるのでその結果が出るまで勉強会と平行して来年も委員会を適宜開催する。

今回も文献5件の紹介説明があつた。

鉄鋼基礎共同研究会
微量元素部会

第5回V分科会 開催日: 10月14日. 出席者: 金沢幹事長, 他 10名.

- 1. V析出物の定量法に関する共同研究について
今までの進捗状況および熱処理条件を決定した実験結果について説明があつたのち、今後の研究の進め方および分担を検討した。
2. 第3回Vに関する研究発表会の開催について
標記の発表会を12月に東京で開くこととし、発表者の確認をした。開催の詳細は幹事会で決めることとなつた。
3. 来年度の微量元素部会の運営について
今までのように個々の微量元素を取りあげることはやめるが、なんらかの形で部会を存続することになつたが具体的なものについては部会運営委員会で検討することになつた。

純鉄部会

第3回部会並びにグループ会議
開催日: 10月28日. 出席者: 草川部会長, 他 21名.
部会およびゾーンメルトグループ, 性質グループの会議を個別に行なつた。
1. 部会
(1) 純鉄部会中間報告書を提出。各委員が実験の進

- 渉状況および今後の計画について説明した。
(2) 共通素材の化学分析を第三者に依頼することにした。
(3) ゾーンメルト鉄の純度を確認するために固体質量分析を検討する。
2. ゾーンメルトグループ
(1) 純度判定に熱起電力を用いる方法がある程度使えるようになった状況を報告(早大草川)
(2) 脱酸材のほうが未脱酸材より高純度になるという結果の報告(防大山下)
(3) オーバーラップ法による精製報告(金材研田村)
(4) 電気抵抗による純度判定法について(東北大井垣)
3. 性質グループ
純鉄の回復・再結晶を中心に各委員の研究発表を行なつた。

真空冶金国際会議準備委員会

第1回委員会 開催日: 9月30日. 出席者: 齋藤委員長, 他 19名.
齋藤委員長より、当準備委員会の設立経緯の説明があつた。すなわち、American Vacuum Societyより日本真空技術(株)の林副社長を通して、1973年に日本で真空冶金の国際会議を開くことの可能性について打診があり林氏は金属学会へ意見を求められた。金属学会では、理事会で審議の結果主催してもよいと考え、齋藤氏に折衝方を一任した。日本の現状からみて、金属学会と鉄鋼協会との共催とし、学術会議、真空協会、応物学会、鋳業会、溶接学会などの協力を願うことになつた旨の説明があつた。その後、東工大後藤先生から、Foster氏らの先方の要望について説明が行なわれた。また事務局より予算案の説明が行なわれた。本国際会議は1973年6月頃、4~5日間の会期で、東京で行なわれることが決められた。

新入会員氏名

(昭和44年10月1日~31日)

Table with columns for member names and their affiliations, including sections for Maintenance Members, Regular Members, and Foreign Members.